

北海道の農林水産業の概要

特徴・取組

北海道の総土地面積は8万3,424km²で、国土の約22%を占め、北海道本島と508の島からなっている。

また、日本列島の最北に位置し、梅雨の影響の少ない冷涼な気候の下、農地や森林などの広大な土地、周りを囲む世界有数の漁場など、資源に恵まれた地域である。

道内総生産は20兆4,646億円（令和元年度）で、産業別構成比は第1次産業が3.9%（全国1.0%）、第2次産業が17.4%（全国25.6%）、第3次産業が77.8%（全国72.5%）となっており、全国に比べ第1・3次産業の割合が高くなっている。また、農業・農村は食品加工業や観光業など幅広い産業と結びつき、地域経済の活性化や雇用の確保に貢献している。

北海道は、積雪期間が長いなど特に冬期の自然環境は厳しいものの、全国の約4分の1の耕地面積を活かし、地域ごとに異なる気候や土地条件に合わせて稲作、畑作、酪農などを中心とした多様な農業生産が展開されている。

北海道の農業産出額は1兆3,108億円で、全国の14.8%（全国第1位）を占めている。また、生乳、ばれいしょ、たまねぎ、軽種馬、小麦など多くの品目が全国第1位である。

北海道の1経営体当たり経営耕地面積は33.1ha（都府県の14.4倍）、1戸当たり乳用牛飼養頭数は152.2頭（同2.2倍）、肉用牛飼育頭数は247頭（同4.6倍）で規模が大きく、農業経営体（個人経営体）のうち主業経営体の割合は75.3%（都府県20.2%）と、大規模で専門的な経営が展開されている。

カロリーベースの食料自給率（令和2年度概算値）は217%（全国第1位）で、我が国最大の食料供給地域として重要な役割を担っている。

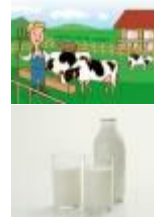
北海道における環境関係の取組としては、農業分野では、全国に先駆けて平成3年度から、健全な土づくりを基本に化学肥料や化学農薬の使用を必要最小限にとどめるクリーン農業などの環境保全型農業を推進している。また、林業分野では、森林吸収源対策として、森林による二酸化炭素吸収量の維持、増加に向け、人工林の計画的な伐採と着実な植林など活力ある森林づくりを推進し、漁業分野では、ブルーカーボンに資する藻場・干潟の保全など、漁業者等が行う水産業の多面的な機能の発揮させるための取組を支援している。

こうした中、令和4年12月、道内全179市町村と共同で「農林漁業における環境負荷低減事業活動の促進に関する北海道基本計画」を策定し、農林漁業者による環境保全型農業や温室効果ガス排出量の削減、生物多様性の保全・再生に資する活動を促進することとしている。

主な農林水産物

生乳

道東・道北の酪農地帯を中心に道内各地で生産され、生産量は全国の56%を占めている。
（生産量全国1位）



ばれいしょ

道内各地で生産され、全国に供給する主力野菜である。収穫量は全国の78%を占めている。
（収穫量全国1位）



米

道央・道南地域を中心に生産され、収穫量は全国の8%で、主な品種は「ななつぼし（道内作付面積の46%）」となっている。
（水稻収穫量全国2位）



小麦

道内各地で生産され、収穫量は全国の62%を占めている。主な品種は「きたほなみ」、「ゆめちから」、「春よ恋」となっている。
（収穫量全国1位）



たまねぎ

道内各地で生産され、ばれいしょと並ぶ主力野菜である。収穫量は全国の61%を占めている。
（収穫量全国1位）



てんさい

北海道でのみ栽培されている作物で、糖類の原材料となる。主に道東の畑作地帯で生産されている。
（収穫量全国1位）



小豆

道東の畑作地帯を中心に道内各地で生産され、収穫量は全国の93%を占めている。
（収穫量全国1位）



ながいも

主に道東の畑作地帯を中心に生産され、収穫量は全国の52%を占め、農産物輸出の代表品目である。
（収穫量全国1位）



ほたてがい

海面漁業漁獲量は全国のほぼ全量を占め、水産物輸出の代表品目である。
（漁獲量全国1位）



さけ類

近海の豊富な海洋資源に恵まれ、海面漁業漁獲量は全国の98%を占めている。
（漁獲量全国1位）



北海道内の各地域における農林水産物

石狩、留萌、上川、空知、胆振、日高地域

【農畜産物】水稲、大豆、そば、なたね、キャベツ、ブロッコリー、たまねぎ、かぼちゃ、トマト、メロン、すいか、花き、軽種馬、肉用牛
【特用林産物】生しいたけ

後志、渡島、檜山地域

【農産物】水稲、ばれいしょ、にら、だいこん、アスパラガス、ねぎ、きゅうり、トマト、メロン、すいか、りんご、ぶどう、おうとう（さくらんぼ）、花き

日本海地域

【水産物】ほっけ、たら類、にしん、かれい、たこ、ぶり、するめいか

宗谷、根室、釧路地域（酪農）

【農畜産物】乳用牛（生乳）、牧草

オホーツク海地域
【水産物】ほたてがい、さけ類、たら類

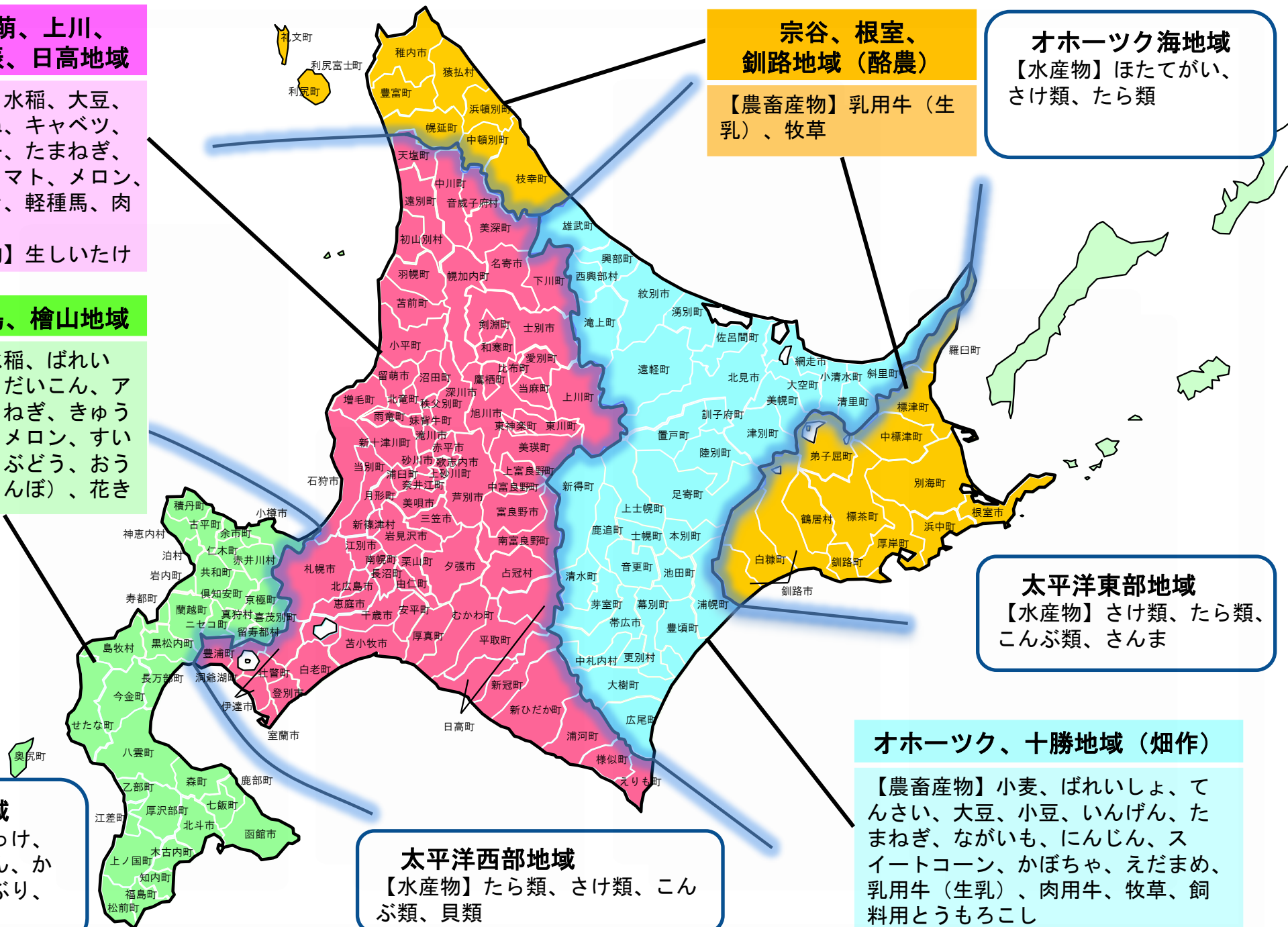
太平洋東部地域
【水産物】さけ類、たら類、こんぶ類、さんま

オホーツク、十勝地域（畑作）

【農畜産物】小麦、ばれいしょ、てんさい、大豆、小豆、いんげん、たまねぎ、ながいも、にんじん、スイートコーン、かぼちゃ、えだまめ、乳用牛（生乳）、肉用牛、牧草、飼料用とうもろこし

太平洋西部地域

【水産物】たら類、さけ類、こんぶ類、貝類



北海道の農業（１）

- ・耕地面積は114万1,000haで全国１位。うち田が221,600ha、畑が919,900ha。
- ・農業経営体数は3万4,913経営体で全国８位。うち法人経営体が4,047経営体で１位。
- ・認定農業者数は2万7,837経営体で全国１位。うち法人が3,769法人で１位。

耕地面積

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
耕地面積	1,141,000 ha	4,325,000 ha	1
田	221,600 ha	2,352,000 ha	1
畑	919,900 ha	1,973,000 ha	1
普通畑	418,100 ha	1,123,000 ha	1
樹園地	3,050 ha	258,600 ha	26
牧草地	498,700 ha	591,300 ha	1
参考）総土地面積	8,342,387 ha	37,797,356 ha	1

出典：「令和4年耕地面積（7月15日現在）」、「令和5年全国都道府県市区町村別面積調（1月1日時点）」（国土交通省国土地理院）

荒廃農地面積

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
荒廃農地面積	1,321 ha	259,502 ha	42

出典：「令和3年度の都道府県別の荒廃農地の発生状況」

担い手への農地の集積状況

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
担い手への集積面積	1,044,736 ha	2,560,109 ha	1
集積率	91.4 %	58.9 %	1

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料（令和3年度版）」

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方

・令和5年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

・表中に使用した記号は次のとおり

「O」：単位に満たないもの（例：0.4t→0t）

「－」：事実のないもの

「…」：調査を欠くもの

「x」：秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「＊」：秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
農業経営体数	34,913 経営体	1,075,705 経営体	8
法人経営体	4,047 経営体	30,707 経営体	1
総農家数	37,594 戸	1,747,079 戸	21
販売農家	32,232 戸	1,027,892 戸	9
参考）世帯総数	2,476,846 世帯	55,830,154 世帯	7
集落営農数	208 集落営農	14,364 集落営農	27

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「令和2年国勢調査」（総務省統計局）、「集落営農実態調査（令和4年2月1日現在）」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	70,643 人	1,363,038 人	1
男	40,423 人	822,144 人	1
女	30,220 人	540,894 人	1
65歳以上	28,630 人	948,621 人	10
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	40.5 %	69.6 %	－
認定農業者数	27,837 経営体	222,442 経営体	1
法人数	3,769 法人	27,974 法人	1
参考）総人口数	5,224,614 人	126,146,099 人	8

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「認定農業者の認定状況（令和4年3月末現在）」、「令和2年国勢調査」（総務省統計局）

北海道の農業（ 2 ）

- ・ 農業産出額は1兆3,108億円で全国1位。うち畜産が7,652億円、野菜が2,094億円、米が1,041億円。
- ・ 農畜産物の生産状況は、生乳、肉用牛、乳用牛、ばれいしょ、たまねぎ、小麦など多くの品目が全国1位。
- ・ 農業生産関連事業は、農産加工の年間販売金額が1,153億円で全国1位、事業体数は1,080事業体で6位。

農業産出額

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
農業産出額	13,108 億円	88,384 億円	1
米	1,041 億円	13,699 億円	2
麦類	512 億円	709 億円	1 *
雑穀	27 億円	78 億円	1
豆類	341 億円	697 億円	1
いも類	722 億円	2,358 億円	1
野菜	2,094 億円	21,467 億円	1
果実	77 億円	9,159 億円	28
花き	131 億円	3,306 億円	8
工芸農作物	465 億円	1,727 億円	1
その他作物	45 億円	587 億円	3 *
畜産	7,652 億円	34,048 億円	1
肉用牛	1,131 億円	8,232 億円	2
乳用牛	4,976 億円	9,222 億円	1
生乳	4,069 億円	7,861 億円	1
豚	512 億円	6,360 億円	3
鶏	383 億円	9,364 億円	7
鶏卵	229 億円	5,470 億円	8
ブロイラー	153 億円	3,740 億円	5 *
その他畜産物	649 億円	869 億円	1
加工農産物	- 億円	549 億円	-

出典：「令和3年生産農業所得統計」

農畜産物の生産状況

区 分	年次	北 海 道	全 国	全国順位
生乳	生産量 R3	4,265,600 t	7,592,061 t	1
肉用牛	飼養頭数 R4	553,300 頭	2,614,000 頭	1
乳用牛	飼養頭数 R4	846,100 頭	1,371,000 頭	1
ばれいしょ	収穫量 R3	1,686,000 t	2,175,000 t	1
たまねぎ	収穫量 R3	665,800 t	1,096,000 t	1
小麦	収穫量 R4	614,200 t	993,500 t	1
小豆	収穫量 R4	39,300 t	42,100 t	1
ながいも	収穫量 R3	81,400 t	156,200 t	1
大豆	収穫量 R4	108,900 t	242,800 t	1 *
水稻	収穫量 R4	553,200 t	7,269,000 t	2

出典：「牛乳乳製品統計」、「畜産統計」、「野菜生産出荷統計」、「作物統計」

農業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
農産加工	総額 115,298 百万円 事業体数 1,080 事業体	953,268 百万円 30,550 事業体	1 6
農産物直売所	総額 30,128 百万円 事業体数 1,220 事業体	1,046,385 百万円 22,680 事業体	10 2
観光農園	総額 1,722 百万円 経営体数 210 経営体	32,634 百万円 4,990 経営体	5 7
農家民宿	総額 211 百万円 経営体数 110 経営体	3,992 百万円 1,180 経営体	5 * 3 *
農家レストラン	総額 1,942 百万円 事業体数 110 事業体	30,336 百万円 1,260 事業体	1 * 1 *

出典：「令和3年度6次産業化総合調査」

北海道の林業

- ・ 林業産出額は416億円で全国3位。うち木材生産が315億円、栽培きのこ類生産が91億円。
- ・ 林産物の生産状況は、素材生産量が全国1位、黒炭、薪、生しいたけが2位。

林業産出額

区 分	北海道	全 国	全国順位
林業産出額	416.0 億円	5,456.6 億円	3
木材生産	314.5 億円	3,254.1 億円	2 *
栽培きのこ類生産	90.6 億円	2,091.6 億円	4

出典：「令和3年林業産出額」

林野面積

区 分	北海道	全 国	全国順位
林野面積	5,503,768 ha	24,770,201 ha	1
国有林	2,915,580 ha	7,153,338 ha	1
民有林	2,588,188 ha	17,616,863 ha	1
人工林面積	1,473,108 ha	10,133,111 ha	1

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業経営体数

区 分	北海道	全 国	全国順位
林業経営体数	4,565 経営体	34,001 経営体	1
法人経営体	675 経営体	4,093 経営体	1

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林産物の生産状況

区 分	北海道	全 国	全国順位
素材生産量	3,163 千m ³	21,847 千m ³	1 *
針葉樹	2,615 千m ³	20,088 千m ³	1
からまつ	1,321 千m ³	1,987 千m ³	1
えぞまつ・とどまつ	1,195 千m ³	1,196 千m ³	1
広葉樹	548 千m ³	1,759 千m ³	1 *
黒炭	生産量 639 t	4,098 t	2 *
薪	生産量 12,482 層積m ³	91,791 層積m ³	2
生しいたけ	生産量 5,632 t	71,058 t	2
木質粒状燃料	生産量 14,641 t	155,836 t	3 *

出典：「令和3年木材需給報告書」、「令和3年特用林産基礎資料」

製材工場数

区 分	北海道	全 国	全国順位
工場数	161 工場	3,948 工場	3
製材用素材の入荷があった工場数	161 工場	3,892 工場	3
国産材のみ	138 工場	3,138 工場	3
国産材と輸入材	20 工場	607 工場	13

出典：「令和3年木材需給報告書」

北 海 道 の 漁 業

- ・ 漁業産出額は2,021億円で全国 1 位。
- ・ 水産物の生産状況は海面漁業のほたてがい、すけとうだらが全国 1 位、海面養殖業のこんぶ類が 1 位、内水面漁業のさけ類が 1 位。
- ・ 漁業生産関連事業は水産加工、水産物直売所の年間販売金額が487億円、66億円で全国 1 位、事業体数は230事業体、90事業体で 1 位。

漁業産出額

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	2,021 億円	12,103 億円	1

出典：「令和2年漁業産出額」

漁業経営体数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	11,089 経営体	79,067 経営体	1
内水面漁業経営体数	221 経営体	4,772 経営体	7

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	24,378 人	151,701 人	1
男	21,490 人	134,186 人	1
女	2,888 人	17,515 人	1

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁船隻数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
漁船隻数	19,142 隻	132,201 隻	1
動力漁船	6,376 隻	69,920 隻	1

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	1,018,914 t	4,163,072 t	1 *
海面漁業漁獲量	910,347 t	3,236,431 t	1
ほたてがい	355,554 t	355,950 t	1
すけとうだら	162,582 t	174,525 t	1
海面養殖業収穫量	108,567 t	926,641 t	1 *
こんぶ類	23,739 t	31,691 t	1 *
ほたてがい	76,348 t	164,511 t	2 *
内水面漁業・養殖業生産量	5,404 t	51,757 t	3 *
内水面漁業漁獲量	5,310 t	18,904 t	1
さけ類	4,309 t	4,873 t	1
内水面養殖業収穫量	94 t	32,854 t	25 *
にじます	73 t	4,161 t	12 *

出典：「令和3年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区 分	北 海 道	全 国	全国順位
水産加工	総額 48,701 百万円 事業体数 230 事業体	170,100 百万円 1,470 事業体	1 * 1 *
水産物直売所	総額 6,573 百万円 事業体数 90 事業体	32,443 百万円 820 事業体	1 * 1 *
漁家民宿	総額 283 百万円 経営体数 40 経営体	5,553 百万円 800 経営体	5 * 5 *
漁家レストラン	総額 502 百万円 事業体数 20 事業体	9,696 百万円 430 事業体	8 * 6 *

出典：「令和3年度6次産業化総合調査」

北海道の農林水産業の話題等（１）

環境に優しい農業の展開

世界的に持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、カーボンニュートラルの実現に向けた取組が重要視される中、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減するために、有機農業や温室効果ガス削減・吸収に資するJクレジット等の認証取得など、地域の特色ある農林水産資源をいかした様々な取組が展開されている。

■ 道内の取組状況

○ 宮地牧場（清水町）

牧草だけで育てた牛から搾るグラスフェッドミルクの生産、加工に取り組み、有機畜産物（令和４年10月）と有機加工食品（令和４年12月）の両方で有機JAS認証を取得し、グラスフェッドバターやフロマージュブランなどを製造販売。今後、オーガニック牛乳や、牧草だけで育てた牛肉グラスフェッドビーフの販売を予定している。

○ ファームノートデリープラットフォーム（中標津（なかしべつ）町）

家畜ふん尿管理方法を貯蓄から固液分離機を使用した強制発酵に変えることで、Jクレジット制度に登録された。家畜ふん尿管理方法の変更での登録は全国初。年間175t（令和４年９月時点）相当の二酸化炭素を削減。強制発酵後の固体は牛の敷料として再利用している。

○ 常呂町産業振興公社（北見市）

JAところ、ところ漁協が連携し、地域資源であるホタテの貝殻や、てん菜糖の副産物である廃糖蜜を原料に「ホタテ貝殻粒状石灰」を製造している。従来の粉末から粒状化することで、土壤改良資材として畑に散布しやすくなり需要が増えている。

○ 北海道立総合研究機構上川農業試験場（比布（ひっぷ）町）

ハウスの構造に空気膜や内張、トンネル等を組み合わせ、厳冬期にも暖房を使わずに野菜を育てる無加温ハウス栽培の普及に向けた情報発信を行っており、年間を通じた農作物の生産体制の構築や、安定した収入の確保を推進している。冬期間でも外の気温より最大で20度以上高い温度でハウス内を保つことができる。



牧場の風景
（宮地牧場）



固液分離機
（ファームノートデリー
プラットフォーム）



固液分離処理をした敷料
（ファームノートデリー
プラットフォーム）



原料となるホタテ貝殻
（常呂町産業振興公社）



ホタテ貝殻粒状石灰
（常呂町産業振興公社）



多重構造無加温ハウス
（北海道立総合研究機構
上川農業試験場）



ハウス内の様子
（北海道立総合研究機構
上川農業試験場）

北海道の農林水産業の話題等（２）

農林水産物・食品の輸出拡大

北海道における農林水産物・食品の輸出総額（令和４年）は、1,103億円（対前年比30.9%）と大きく増加した。増加額の大きい品目は、ホタテ貝596.5億円（+175.4億円）、魚油（肝油除く）56億円（+41.4億円）、野菜・その調製品42.3億円（+11.5億円）が挙げられる。

注）北海道内の税関を通過した実績であり、道外の税関を通過した実績は含んでいない。

■道内の取組状況

○苫小牧埠頭（苫小牧市）

国内最大規模のかんしょ選果施設の操業を開始（令和４年11月）。道内各地で生産されるかんしょを集約して、海外向けに出荷する輸出拠点の役割を担う。令和４年度の同施設での全体取扱量は約110t。うち、アジアへの輸出は約10tを実施した。

○北海道はまなす食品株式会社（北広島市）

自社の納豆を中国、香港など15か国と地域に輸出。輸出業務を学び、直接輸出を実現させた。納豆の健康に関する情報や納豆文化を現地の消費者に伝えている。

「令和４年度輸出に取り組む優良事業者表彰」で「輸出・国際局長賞」を受賞した。



かんしょの選果作業
（苫小牧埠頭）



輸出している主な納豆
（北海道はまなす食品株式会社）



シンガポールMEIJIYAの納豆売場
（北海道はまなす食品株式会社）

スマート農業の展開

北海道の多くの地域で、ロボット、AI、IoTなどを活用したスマート農業技術の導入による省力化や生産性向上等の取組が展開されている。農作業の省力化・高精度化に向けた技術として、農業用GNSSガイダンスシステム※等の導入が進んでいる。

※測位衛星システムからの信号を受信して、走行経路を表示する装置。

■道内の取組状況

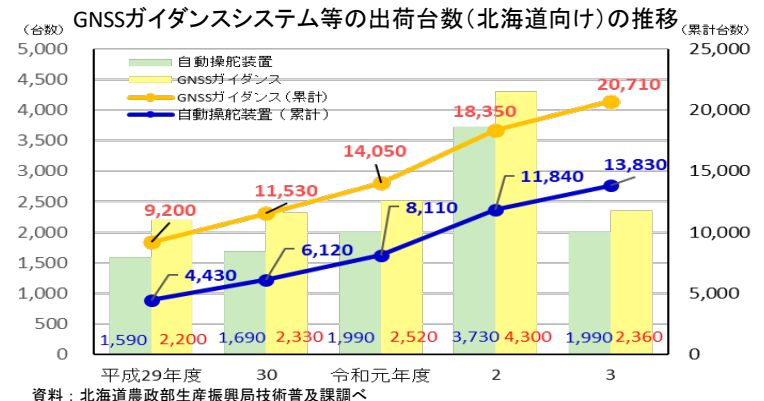
○岩見沢市スマート・アグリシティ実証コンソーシアム※

ローカル5G等を活用したロボット農機の複数台連続稼働や遠隔監視・制御機能の実装を行い、農家の労働力確保や営農作業の効率化、経営強化を目指した実証を進めている。

※東日本電信電話（株）、北海道大学・大学院農学研究院、岩見沢市、（株）スマートリンク北海道、（株）クボタ、（株）日立ソリューションズ、日本電信電話（株）、（株）NTTドコモ、（株）はまなすインフォメーション、いわみざわ農業協同組合、いわみざわ地域ICT（GNSS等）農業利活用研究会、（有）西谷内農場、（株）只野農園、（有）谷本農場

○新十津川町

スマート農業を活用した継続的な農業と農村の発展を目的に、農機メーカーとスマート農業連携協定を締結（令和４年３月）。町独自に導入支援を行うなど、スマート農業技術の普及に取り組んでいる。

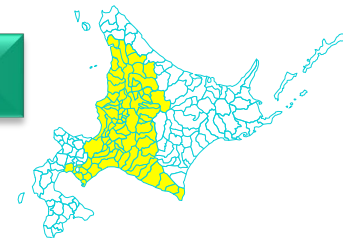


遠隔監視・制御
（岩見沢市スマート・アグリシティ
実証コンソーシアム）



複数台連続稼働
（岩見沢市スマート・アグリシティ
実証コンソーシアム）

道央地域の農林水産業の概要



特徴・取組

北海道の中央部から日本海に注ぐ石狩川水系に沿った道内最大の石狩平野や上川盆地、苫小牧市を中心とする勇払（ゆうふつ）平野を有する。

上川地方の気候は、夏は30℃を超える日が長く続く一方、特に冬の寒さが厳しく、季節による寒暖差が大きい。肥沃な土壌を活かして多種多様な農畜産物が生産されており、中でも豊富な水資源を利用した稲作が盛んである。

石狩地方は札幌市を含み、北海道の総人口の46%（約238万人）を占める都市圏としての側面も有する。

道央地域の総生産（令和元年度）は道内の69%を占めている。産業別の割合は、第1次産業が2%（うち農業87%、林業4%、水産業8%）、第2次産業が17%、第3次産業が80%となっている。

耕地面積は38万3千ha（道内の34%）で、農業産出額は4,206億円（道内の33%）である。日高山脈などを有することから、林野面積は232万9千ha（道内の42%）と広大で、このうち天然林が166万7千ha、人工林が56万haである。海面漁業漁獲量は8万8千t（道内の10%）である。

水稻を中心に、野菜や軽種馬など地域の特色をいかした農業が展開されている。幌加内（ほろかない）町のそば、長沼町の大豆、和寒町のかぼちゃ及び胆振（いぶり）・日高地方の軽種馬は国内最大の産地である。

幌加内町では、下水処理の過程で発生する汚泥と収穫量全国1位を誇る町の特産物「そば」の残さであるそば殻を混ぜ合わせた堆肥の製造を実証的に行っている。

もともと牛ふんとバークの堆肥製造を行っていたが、原料コスト上昇等の課題があり、令和元年度から原料コストのかからない汚泥とそば殻を活用した堆肥の製造を始めた。

令和2年度製造分は約70tで、令和5年の春には町内の農家の協力のもと、そば畑に散布試験する予定である。

主な農林水産物

米

道全体の収穫量は全国の8%（全国2位）、道央地域は北海道の89%を占め、主に「ななつばし」、「ゆめぴりか」、「きらら397」などの品種が生産されている。



大豆

道全体の収穫量は全国の43%（全国1位）、道央地域は北海道の54%を占めている。
主な産地は長沼町、岩見沢市、美唄（びばい）市。



トマト

道全体の収穫量は全国の9%（全国2位）、道央地域は北海道の72%を占め、生食向けが主流である。
主な産地は平取（ひらとり）町。



メロン

道全体の収穫量は全国の14%（全国3位）、道央地域は北海道の62%を占めている。
夕張メロンが地理的表示（GI）に登録されている。



そば

道全体の収穫量は全国の42%（全国1位）、道央地域は北海道の73%を占め、幌加内町は市町村別の収穫量で全国一を誇る。



アスパラガス

道全体の収穫量は全国の12%（全国1位）、道央地域は北海道の70%を占めている。
主な産地は富良野市、名寄（なよろ）市。



ブロッコリー

道全体の収穫量は全国の16%（全国1位）、道央地域は北海道の67%を占めている。



かぼちゃ

道全体の収穫量は全国の47%（全国1位）、道央地域は北海道の60%を占めている。

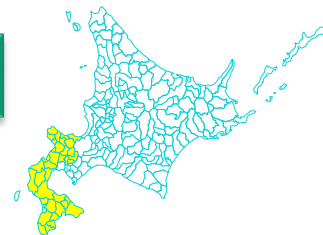


軽種馬

道全体の生産頭数は全国の98%（全国1位）、道央地域は北海道のほぼ全頭を占めている。



道南地域の農林水産業の概要



特徴・取組

北海道の南西部に位置し、渡島（おしま）半島は東に噴火湾、西は日本海、南は津軽海峡・太平洋と三方を海に囲まれ、古くから漁業が盛んである。洞爺（とうや）湖の北に位置する羊蹄山麓地域は冬季に豪雪に見舞われる一方、渡島半島の平野部は道内で最も温暖である。北海道における近代農業発祥の地として、明治以降に導入された農業技術を発展させ、地域ごとに特色ある農業生産が展開されている。

道南地域の総生産（令和元年度）は道内の11%を占めている。産業別の割合は、第1次産業が3%（うち農業59%、林業4%、水産業37%）、第2次産業が20%、第3次産業が76%となっている。

耕地面積は7万7千ha（道内の7%）で、農業産出額は1,004億円（道内の8%）である。林野面積は86万1千ha（道内の16%）で、このうち天然林が61万8千ha、人工林が21万haである。海面漁業漁獲量は14万t（道内の15%）である。

各地で水稻が生産されているほか、函館市近郊の施設野菜栽培、羊蹄山麓地域の畑作、後志（しりべし）北部の果樹栽培など多様性に富んだ農業が展開されている。地理的表示（GI）に、ばれいしょ「今金（いまかね）男しゃく」、なまこ「檜山海参（ヒヤマハイシェン）」が登録されている。醸造用ぶどう栽培からワイン製造までの一貫した取組も行われている。

上ノ国（かみのくに）町で主にトマトを栽培している株式会社寅福（とらふく）は、敷地内を地下1,200mまで掘り60度の温泉水をくみ上げ、その温泉熱を利用し、ハウス内（約2万5,000㎡）の光熱費を年3割削減した。ハウス内に配管したパイプを温泉水が通ることによって温度を高めている。

更にLPG燃烧で排出したCO₂はトマトの光合成に使用。ハウス内の温度や湿度はセンサーでリアルタイムに管理され、トマトの生育調査のデータと照らし合わせて常に最適な生育環境になるよう制御している。また、トマト栽培で年間1,000t出る植物残さを堆肥化し活用している。

主な農林水産物

米

道全体の収穫量は全国の8%（全国2位）、道南地域は北海道の10%を占め、「ふっくりんこ」は道南地域で生産されているブランド米である。



にら

道全体の収穫量は全国の5%（全国6位）、道南地域は北海道の92%を占め、知内（しりうち）町のブランドである「北の華」は道内一の生産量を誇る。



ねぎ

道全体の収穫量は全国の5%（全国4位）、道南地域は北海道の61%を占め、ハウス栽培、露地栽培ともに盛んである。

主な産地は七飯（ななえ）町、北斗市。



ぶどう

栽培面積は北海道の59%を占め、生食用のほか、醸造用ぶどうの栽培も盛んである。

主な産地は余市町、仁木町。



メロン

道全体の収穫量は全国の14%（全国3位）、道南地域は北海道の37%を占め、「らいてんメロン」として、ブランド化が進められている。

主な産地は共和町。



おうとう（さくらんぼ）

栽培面積は北海道の62%を占め、主要品種である「佐藤錦」をはじめ、「北光（水門）」、「南陽」など、多くの栽培品種がある。

主な産地は仁木町、余市町。



ぶり

道全体の海面漁業漁獲量は全国の15%（全国1位）、道南地域は北海道の64%を占めている。

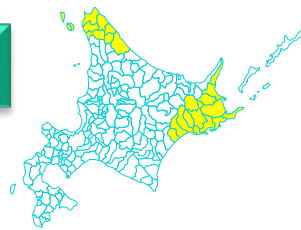


ほっけ

道全体の海面漁業漁獲量は全国の97%（全国1位）、道南地域は北海道の57%を占めている。



道東（酪農）・道北地域の農林水産業の概要



特徴・取組

北海道の東部に位置する根室・釧路地方は、世界自然遺産に登録されている知床に加えて、阿寒摩周、釧路湿原と3つの国立公園があるなど、森林や湖沼、海岸と豊かな自然に恵まれた地域である。気候は湿潤冷涼で夏季は霧が発生し、冬季は晴天の日が多い。

北海道の最北に位置する宗谷地方は、東はオホーツク海、西は日本海に面し、北部は宗谷海峡を経てサハリン(旧樺太)を望み、日本海には利尻島、礼文島がある。

道東(酪農)・道北地域の総生産(令和元年度)は道内の8%を占めている。産業別の割合は、第1次産業が12%(うち農業61%、林業2%、水産業37%)、第2次産業が21%、第3次産業が66%となっている。

耕地面積は26万1千ha(道内の23%)で、農業産出額は2,474億円(道内の20%)である。林野面積は88万7千ha(道内の16%)で、このうち天然林が58万3千ha、人工林が25万haである。海面漁業漁獲量は40万t(道内の44%)と日本有数の漁場である。

広大な丘陵と湿原を含む平坦地が大半を占める反面、泥炭地が多く、畑作には適さない。これを背景に、牧草地を中心とした大規模な草地型酪農が展開されており、国内有数の酪農地帯となっている。また、根室地方は北洋漁業の基点として栄えてきたが、近年は、沿岸資源を増加させるため増殖場や魚礁漁場の整備を図り、サケ・マスをはじめとして、ほたてがい、うに、にしん等の種苗放流が行われている。

釧路市で活動している酪農女性グループ「Becotto(ベコット)」は、「酪農生活を楽しむ」を目標に活動している。勉強会をはじめ、酪農家の作業風景を撮影した写真展、川柳コンテスト等を開催するほか、オリジナルグッズの制作・販売も行い、活動をSNSで情報発信している。結果として、これらの活動が地域活性化につながっている。

令和4年度には、釧路市が男女平等参画の推進に関わる活動に取り組んでいる個人、団体を顕彰する「くしろ男女いきいき参画表彰」を受賞した。

主な農林水産物

乳用牛

道全体の飼養頭数は全国の61%(全国1位)、道東(酪農)・道北地域は北海道の45%を占めている。



ほっけ

道全体の海面漁業漁獲量は全国の97%(全国1位)、道東(酪農)・道北地域は北海道の36%を占めている。



ほたてがい

道全体の海面漁業漁獲量は全国のほぼ全量を占め、道東(酪農)・道北地域は北海道の50%を占めている。



さけ類

道全体の海面漁業漁獲量は全国の98%(全国1位)、道東(酪農)・道北地域は北海道の30%を占めている。



にしん

道全体の海面漁業漁獲量は全国のほぼ全量を占め、道東(酪農)・道北地域は北海道の43%を占めている。



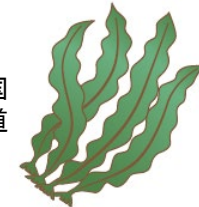
たこ類

道全体の海面漁業漁獲量は全国の64%(全国1位)、道東(酪農)・道北地域は北海道の45%を占めている。



こんぶ類

道全体の海面漁業漁獲量は全国の97%(全国1位)、道東(酪農)・道北地域は北海道の68%を占めている。



うに類

道全体の海面漁業漁獲量は全国の58%(全国1位)、道東(酪農)・道北地域は北海道の37%を占めている。



すけとうだら

道全体の海面漁業漁獲量は全国の93%(全国1位)、道東(酪農)・道北地域は北海道の41%を占めている。

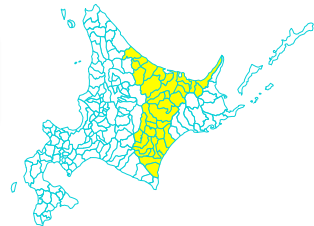


さんま

道全体の海面漁業漁獲量は全国の42%(全国1位)、道東(酪農)・道北地域は北海道の88%を占めている。



道東（畑作）地域の農林水産業の概要



特徴・取組

十勝平野は北海道の中心よりやや南東部に位置し、北に大雪山系、西に日高山脈があり、日照時間に恵まれ年間降水量は少なく、道内随一の農業地帯として知られる。

また、北東部のオホーツク海沿岸は、オホーツク海と西の北見山地、南の阿寒山系、東の知床（しれとこ）連山に囲まれた、自然が豊かな地方である。年間の日照時間は道内でも比較的長く、冬期は沿岸部に流水が接岸する。

道東（畑作）地域の総生産（令和元年度）は道内の12%を占めている。産業別の割合は、第1次産業が11%（うち農業84%、林業3%、水産業13%）、第2次産業が18%、第3次産業が70%となっている。

耕地面積は42万ha（道内の37%）で、農業産出額は4,981億円（道内の39%）である。林野面積は145万8千ha（道内の26%）で、このうち天然林が93万6千ha、人工林が45万3千haである。海面漁業漁獲量は28万t（道内の31%）である。

十勝平野は、小麦、ばれいしょ、てんさい、豆類の輪作を中心とした、大規模で機械化された畑作地帯である。

オホーツク海沿岸地域は、我が国最大のたまねぎ産地であるほか、小麦、てんさい、ばれいしょを主体とした輪作が行われ、乳用牛及び肉用牛の飼養頭数の国内シェアも高い。オホーツク海沿岸のサロマ湖以北では酪農が基幹産業となっている。

新得町の農事組合法人共働学舎新得農場は、行政の福祉支援に頼らず、障害者や生活困窮者、ひきこもりの状態にある者などさまざまな悩みを抱える方たちを受入れ、農作業や集団生活を通じて「自立のための支援」を行っている。作業内容は、約110haの農場での家畜の世話、野菜づくり、チーズ製造など多種多様な作業があり、それぞれに合った作業を選択することができる。

また、チーズは世界的な賞に選ばれ、インターネット販売など6次産業化にも取り組んでいる。

農福連携の推進に向け、全国各地の優良事例を表彰する「ノウフクアワード2022」で最高賞のグランプリを受賞した。

主な農林水産物

小麦

道全体の収穫量は全国の62%（全国1位）、道東（畑作）地域は北海道の62%を占め、秋に播種して翌年夏に収穫する「秋まき」が94%を占めている。



ばれいしょ

道全体の収穫量は全国の78%（全国1位）、道東（畑作）地域は北海道の83%を占め、生食用、加工用、でん粉原料用と多様な用途で生産されている。



てんさい

道東（畑作）地域の収穫量は北海道の85%を占め、製糖工場が5工場（道内7工場）あり、糖類の原材料として生産されている。



大豆

道全体の収穫量は全国の43%（全国1位）、道東（畑作）地域は北海道の38%を占めている。主な産地は音更町、帯広市、芽室町。



たまねぎ

道全体の収穫量は全国の61%（全国1位）、道東（畑作）地域は北海道の63%を占めている。主な産地は北見市。



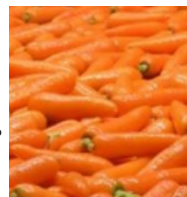
ながいも

道全体の収穫量は全国の52%（全国1位）、道東（畑作）地域は北海道の93%を占めている。十勝川西長いもが地理的表示（GI）に登録されている。



にんじん

道全体の収穫量は全国の32%（全国1位）、道東（畑作）地域は北海道の66%を占めている。主な産地は斜里町、美幌町、音更町。



スイートコーン

道全体の収穫量は全国の37%（全国1位）、道東（畑作）地域は北海道の65%を占めている。



えだまめ

道全体の収穫量は全国の14%（全国1位）、道東（畑作）地域は北海道の98%を占めている。

